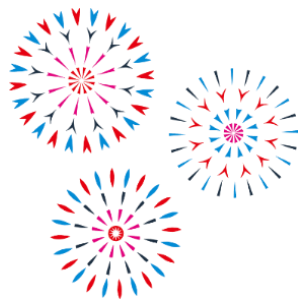




<特集>花火



今年も長岡の大空に、豪華で迫力のある花火が打ちあげられる季節が近づいてきました。そこで今回は、花火をもっと楽しむことができる本をご紹介します。



『白菊 伝説の花火師・嘉瀬誠次が捧げた鎮魂の花』

山崎 まゆみ／著 小学館 N/575/カ

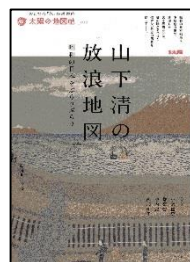
長岡花火で最初にあがる白い花火「白菊」。その白菊をつくる花火師を追ったノンフィクション。「白菊」がつくられた背景に、どんな物語があるのか。改めて、長岡の花火を見つめ直す一冊となるのではないのでしょうか。(H. N)



『花火のふしぎ 花火の玉数は数え方しだい？美しい花火の正式な基準とは？』

榎木 一馬／著 ソフトバンククリエイティブ Z/575.9/サ

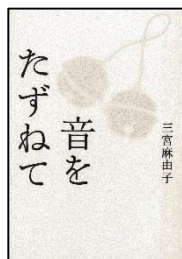
夜空に広がる光を見ながら全身で花火を感じる。そして頭の片隅に、花火の豆知識はいかがですか。大きさや形、色に音。花火師の思いと花火に関する知識で、私たちの目の前にあがる花火の素晴らしさを再発見しましょう。今年の花火がより一層輝いて見えるのではないのでしょうか。(A. T)



『山下清の放浪地図 昭和の日本をぶらりぶらり』

山下 浩／監修 平凡社 723.1/ヤ

放浪の天才画家山下清の最後の言葉は「今年の花火はどこへ行こうか」だったそうです。清は生涯において花火を題材にした作品を数多く制作し、どれも花火の音や人々の歓声まで聞こえてくるようです。この本には、嘉瀬誠次さんとの運命の出会いも紹介されています。(N. Y)



『音をたずねて』

三宮 麻由子／著 文藝春秋 914.6/サ

幼くして光を失った著者による、音にまつわるエッセイ。その一編に、平成17年の長岡まつり大花火大会を訪れたときの様子が綴られています。花火の輝きや響き、打ち上げのアナウンス…。慣れ親しんだ情景も、著者の心の眼を通すとより鮮やかな印象に変わります。(A. O)

新収蔵 記念！

そりまち しげお 反町茂雄文庫紹介

◆反町茂雄文庫とは 「反町茂雄文庫」は、長岡市出身で古書専門店弘文荘代表取締役反町茂雄から寄贈された郷土資料 1,592 点に加え、寄付いただいた資金により図書館が収集した 1,421 点の郷土資料に、長男雄一から寄贈された郷土資料 32 点を加えた長岡市立中央図書館の特色資料です。戦災で多くの貴重な資料を失ってしまった故郷長岡のことを気かけ「県下の郷土史研究のセンターのようなものが、私の生まれた長岡に出来れば」と願い、長年に渡って数多くの貴重な資料と資金をくださいました。寄贈された資料の多くは長岡市や新潟県に関係するもので、図書だけでなく軸物や錦絵などの貴重資料も含まれます。長岡の郷土資料充実のために援助を惜しかなかった反町茂雄をしのぶ貴重な資料群です。

◆新収蔵資料の紹介 昨年度、反町茂雄の親族である反町和夫氏から反町茂雄文庫の充実・運営を目的とした寄付をいただきました。寄付により新たに購入した資料は既存の資料と同じく、郷土に関わる図書 235 点です。小林虎三郎の弟小林雄七郎が明治 21 年に著した小説「自由鏡 初篇」や杉本鉞子の「お鏡」の邦訳が連載された昭和 15 年の「婦人之友」など、一般の流通ではすでに手に入りにくい資料を購入しました。



左:『自由鏡 初篇』
小林 雄七郎／著
金港堂 1888 年



右:『婦人之友』
昭和十五年 五・六月号
婦人之友社 1940 年

◆利用するには 今回購入した図書をご覧になりたい場合は『反町茂雄文庫追加目録（平成 28 年 3 月）』（長岡市立中央図書館／編）にて目録をご覧いただけます。今まで購入した資料をご覧になりたい場合は『長岡市立中央図書館所蔵笠輪勝太郎文庫目録 斎藤和代文庫目録 反町茂雄文庫目録』（長岡市立中央図書館／編）をご覧ください。カウンター職員が書庫からご用意いたします。残念ながら全ての資料が館内のみのご利用となりますが、コピーや撮影は可能です。なお、軸物などの貴重資料については『反町茂雄文庫目録 第 1・2 集』（長岡市立中央図書館）にて写真・解説を付して紹介しています。

反町茂雄（1901～1991）プロフィール

明治 34 年 8 月 28 日、長岡町神田（長岡市神田町）生まれ。明治 43 年に上京し東京帝国大学法学部政治学科を卒業後、古書業界に入り、古書店「弘文荘」を開業。当時としては珍しく店舗を持たず、「弘文荘待賢古書目」という目録を作成し通信販売を主としていた。仕入れから、その商品の研究、評価、解説、目録の作成、売り込みまですべて一人でこなし、海外まで買付け、国宝級の文化財を数多く取り扱う。国内の歴史、国文学の研究に大きく貢献し古書業界の発展に尽くした功績により、昭和 57 年には新潟日報文化賞を受賞、平成 3 年には東京都文化賞を受賞した。

始めています！ 人と本をつなぐ新しい試み 館長通信

今年度、中央図書館では「郷土に関する各種資料等の収集・保存・活用に努める」ことはもちろん、読書の楽しみと魅力を知ってもらうことにも力を入れたと考えています。そのため、重点事項の一つに「積極的な広報や各種機関などとの連携を進め、本と人をつなぐ、様々な事業を実施する」ことを掲げました。

昨年度実施した、第4回長岡まちゼミでの商店街とのコラボ企画(館内にまちゼミ関連図書コーナーを設置。講座に関連する本を紹介)や長岡市中心市街地活性化協議会と共催で行った、まちなかで本を読もうという取り組み「まちぼん」(大手通りの公共施設に図書館職員をはじめ施設利用者や高校生が勧

める本を展示)などの連携を継続します。そして新たに、市内の企業と連携した児童向け講座や展示、地元出身の音楽家を招いてのコンサートなども実施したいと考えています。人と本をつなぐことは、本を間に人と人をつなぐことでもあり、これらの取り組みで、様々な連携の輪が広がっていくことを期待しています。

また、中央図書館の魅力づくりとして前庭にベンチテーブルを設置し、イベントの際にコーヒーやアイスクリームなどの移動販売車を誘致するなど、図書館に来たくなるような新たな魅力づくりにもチャレンジします。どうぞ、ご期待ください。(金垣 孝二)

中央図書館所蔵資料紹介 No.149 小山正太郎 画賛 富士山

小山正太郎(1857~1916)は安政4年、長岡藩医の小山良運の長男として生まれます。長岡洋学校を経て15歳で上京、川上冬崖の私塾に入門し洋画を学び、明治9年、工部美術学校でフォンタネージから本格的な技法を教わりました。

明治12年、東京師範学校の教師となりますが、洋風美術は圧迫され、正太郎は厳しい境地に立たされることになるのです。しかし巻き返しをはかり、洋画の自由な研究をめざした「不同舎」から、500人を超える門下生を輩出するまでになりました。

右は明治43年の夏、正太郎53歳時に、長岡の旅館で人に所望されて表したものです。右下に五言絶句の漢詩が見えます。

「片雲生大麓 已冒衆山巔 衆山互明滅 雲表独巍然」

山の麓に、初めかすかな雲が生じ、それが広がってみるみる山の頂きを覆う。明るくなったかと思えば暗くかげる。やがて雲の上に山がむっくりと顔をだし、高く大きくそびえたつ。

この詩は、富士山の自然を描写するだけでなく、人の世も同様で、たとえ暗雲に覆いつくされても、耐えればいつかはその身を立てることができる、という励ましにも思えます。

(小熊 よしみ)



☆7月1日(金)から18日(月・祝)まで中央図書館エントランスで展示します。

7月～9月 イベント

映画会

★入場無料・申込不要 講堂 14:00～（開場 13:30～）

7/8（金）「汚名」1946年/アメリカ（101分）

7/30（土）夏休み映画会

- ① 10:30-11:30 「ぼくは王さま たまごめいたんてい」（アニメ）
2013年/日本（55分） ② 14:00-15:55 「劇団四季 魔法をすてた
マジョリン」（ミュージカル）2011年/日本（111分）

8/14（日）平和を考える映画会

- ① 10:00-11:40 「僕の村は戦場だった」1962年/旧ソ連（95分）
② 14:00-15:40 「ノー・マンズ・ランド」2001年/フランス他（98分）

8/30（火）「蝉しぐれ」2005年/日本（131分）

9/10（土）「黙して契れ」2010年/ベネズエラ（97分）

9/22（木祝）「魍魎の匣」2007年/日本（133分）

10/2（日）「シャレード」1963年/アメリカ（113分）

講座 ～子どもに関わるすべての方へ～

9/24（土）「絵本のよろこび」

講師：伊藤美智子氏（野いちご文庫スタッフ）

◆時間：10:00-12:00 ◆申込：9/11（日）から窓口・電話・HPで受付 ◆

定員：180人（先着） ◆対象：高校生以上

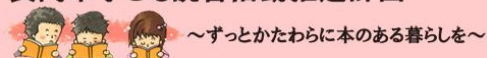
◆一時保育：9/21までに要予約。先着5名。6ヶ月以上が対象。

講座終了後、当館職員がブックスタートについてお話しします。

興味のある方は、ぜひご参加ください。（30分程度）



長岡市子ども読書活動推進計画



～ずっとかたわらに本のある暮らしを～

★ 栃尾美術館 ★ 展覧会情報 ★

岩合光昭写真展 ネコライオン

7/16(土)～9/25(日) 一般500円 大高生250円 中学生以下無料

※ 詳しくは栃尾美術館にお問合わせ下さい。（電話：0258-53-6300）

平成28年7月1日

長岡市立中央図書館 編集・発行

長岡市学校町1-2-2

TEL. 0258-32-0658

mail: lib@city.nagaoka.niigata.jp

ガンジージェラート

& コーヒー

移動販売が来ます！

◎正面玄関左の前庭付近

7/31（日）・8/28（日）

11:00～16:00

展覧会

写真と資料で振り返る

長岡市制施行110年のあゆみ展

明治39年の長岡市制施行から現代までの110年のあゆみを、写真パネルと関連資料などで紹介します。関連行事も多数開催しますので、ぜひお気軽にお立ち寄りください。

会期：平成28年7月23日（土）～8月7日（日）

休展日：7/25（月） 入場無料

時間：10:00～18:00 ※初日7/23（土）は正午開場、8/1（月）は午後5時まで

主催：長岡市・長岡市教育委員会

主管：長岡市立中央図書館

関連行事

■ゲスト講師による展示解説 14:00～（30分程度）

7/24（日）田邊幹さん（新潟県立歴史博物館主任研究員）昭和前期、7/30（土）松本和明さん（長岡大学教授）昭和後期、7/31（日）長谷川健一さん（長岡郷土史研究会会長）長岡まつりほか、8/6（土）今井雄介さん（長岡郷土史研究会顧問）明治時代ほか、8/7（日）内山弘さん（『長岡市政100年のあゆみ』編集委員会委員長）大正時代

■ミニ解説 平日11:30～ 当館職員が解説します。

同時開催

■長岡ゆかりの映画会

A 7/23（土）13:00～「その壁を砕け」（入替制）
B 7/23（土）15:00～「爆弾男といわれるあいつ」
C 7/24（日）15:00～「青春の鐘」
（…長岡がロケ地…）

D 8/6（土）15:00～「疎開した40万冊の図書」
（…長岡出身の古書肆反町茂雄ら、戦時中に本を守った人々を描いたドキュメンタリー…）

E 8/7（日）15:00～「掘るまいかー手掘り中山隧道の記録」
（…つるはし1本でトンネル掘りに挑んだ山古志村民の記録…）

■あの年のベストセラーコーナー @1階閲覧室

整理券配布あり。詳しくはお問合わせ下さい